# 陳情 2 第 10 号



みどり豊かな・こころ豊かな環境つくりに資するため、伐採樹木等の再生 に取り組むことを求める陳情

# 1、陳情の項目

みどり豊かな・こころ豊かな環境つくりに資するため、伐採樹木等の再生に向けて、市に対し、次の事項を施策に反映するよう促してください。

- ① やむなく伐採された(る) 枝葉・種子から、新たな苗木として育成していくこと。 あるいは、樹勢のある時期に枝葉を採取し、育成していくこと。
- ② 育成された苗木(幼木)は、先代の地等に植樹をしていくこと。
- ③ 記念樹等として、長久保公園都市緑化植物園等にて、市民への頒布も考えていくこと。
- (4) 伐採樹は用材としては不向きが多いが、可能の限り活用していくこと。

## 2、陳情の理由

### (1)木々の無念の声が聞こえる

藤沢市内にも樹齢数十年から数百年にも及ぶと思われる老樹·大樹があります。

幼木から大樹に育つまでには、同じ場所で長く厳しい年月を経なければなりません。とりわけ大樹を観あげるときは、その樹勢や幹肌から、長い年、月の「気」を感じ、畏怖の念さえ抱くこともあり、慈しみを浴びる感じがします。さらには、遠い昔日に通いなれた学校・公園・建物とともに、友や家族や時代を懐かしみ落ち着いた気持をも抱かせるものです。

しかしながら、藤沢市においては、ここ数年の間に、しかも公共の施設用 地等にありながら、相応の樹齢に達した樹木が何の躊躇いもないように伐 採され、その後は何事も無かったかの如くに、忘却に委ねられようとしてい ます。やむなく伐採の憂き目にあった木々は、次世代を残すことなく絶え てしまいます。まさに、木々の無念の声が聞こえてきそうです。

#### (2) 再生の担い手は

幸いにも市内には多くの植木生産者があり、永年に渡って研鑽を積まれ、 素晴らしい果樹や花木を育て、それらは、市内外の多くの公園、公共施設、 工場、そして家庭に、四季折々に潤いを与え、愉しまれています。

この優れた植木生産者や長久保公園都市緑化植物園等の技量と協力のもとであれば、伐採樹木を再生し、次世代育成の実現を期待できます。

# (3)この新たな取り組みによって

市長をはじめとする市職員あるいは事業者に自己の年齢を超えて生きぬいてきたであろう樹木に対して、さらには、さまざまな「いのち」に対しても、新たに、一層の畏怖と慈しみを持たれることが期待されます。

木々の「いのち」を引き継ぎ、育むことは、私たちの「いのち」を育む環境づくりに通ずるはずです。

世代を引継いだ種は、先代の地あるいは新天地で根を張り、その新たな成長は、私たちのみどり豊かな・こころ豊かな環境つくりにも資するものと考えます。

以上

2020(令和2年)年8月26日

藤沢市村岡東2丁目18番の2 油川 登志雄



藤沢市議会 議長 加藤 一様

